(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2010-236247
(P2010-236247A)
(43)公開日　平成22年10月21日(2010.10.21)

(51)Int.Cl.			F I			テーマコード（参考）
E04B	1/64	(2006.01)	E04B	1/64	C	2E001
E04F	19/02	(2006.01)	E04F	19/02	U	

審査請求 未請求　請求項の数 1　OL　（全 6 頁）

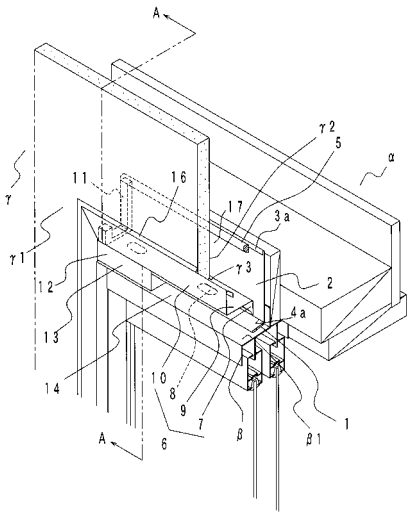
(21)出願番号　特願2009-84721(P2009-84721)
(22)出願日　平成21年3月31日(2009.3.31)

(71)出願人　390018463
アイジー工業株式会社
山形県東根市大字蟹沢字上縄目１８１６番地－１２
(72)発明者　林崎哲也
山形県東根市大字蟹沢字上縄目１８１６番地の１２　アイジー工業株式会社内
(72)発明者　荻野光彦
山形県東根市大字蟹沢字上縄目１８１６番地の１２　アイジー工業株式会社内
(72)発明者　佐藤郁恵
山形県東根市大字蟹沢字上縄目１８１６番地の１２　アイジー工業株式会社内

Fターム(参考)　2E001 DA01　DA03　FA04　FA09　FA32
GA13　GA55　HA01　HB01　HD11
MA02　MA04　MA06

(54)【発明の名称】外装材下端面と開口部上側縁との止水構造

(57)【要約】　（修正有）
【課題】建物外壁面を構成するサイディングなど外装材の下端面と、その下方に位置するサッシなどの開口部上側縁との隙間をシーリング材によって止水する止水構造を提供する。
【解決手段】外装材γの下端面と開口部β上側縁間の止水構造において、開口部上側縁に配置した略断面Ｌ字状の水切り材２と、水切り材２の上部に外装材γの下端面を被覆する断面略クランク状の見切り材６を形成し、水切り材２と見切り材６間の上側縁における両端部、外装材γと被覆片先端１０ａ間、さらに外装材γと水切り材２上端部３ａ間とをシーリング材５で、水切り材２、見切り材６と外装材γ間の開口部β上側縁における両端部分をＪ字状のパッキン１１で閉塞したことを特徴とする外装材下端面と開口部上側縁との止水構造である。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
外装材の下端面と開口部上側縁間の止水構造において、開口部上側縁に配置した略断面Ｌ字状の水切り材と、水切り材の上部に外装材の下端面を被覆する断面略クランク状の見切り材を形成し、水切り材と見切り材間の上側縁における両端部、外装材と被覆片先端間、さらに外装材と水切り材上端部間とをシーリング材で、水切り材、見切り材と外装材間の開口部上側縁における両端部分をＪ字状のパッキンで閉塞したことを特徴とする外装材下端面と開口部上側縁との止水構造。

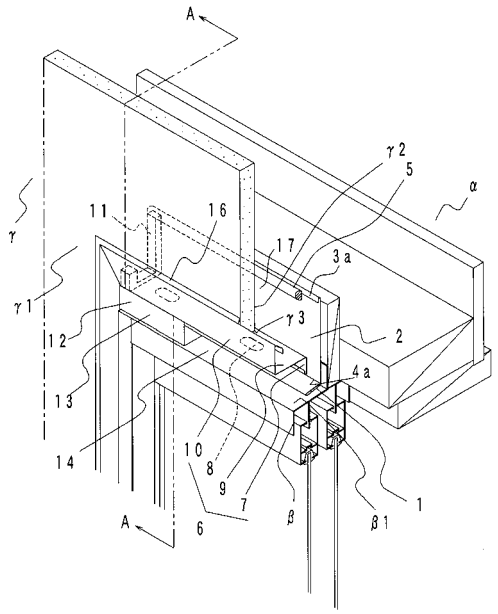
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、建物外壁面を構成するサイディングなど外装材の下端面と、その下方に位置するサッシなどの開口部上側縁との隙間をシーリング材によって止水する止水構造に関する。
【背景技術】
【０００２】
建物の外壁面に一定寸法の各種サイディングを取付ける場合、サイディングと窓等の開口部との納めは、現場で切断したサイディング端部を開口部に突き合せ、サイディング端部と相手側部材との間にシーリング材を充填して隙間を塞いでいた。（例えば、特許文献１～４参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開平１０－１４０６７６公報
【特許文献２】特開２０００－３３６８８９公報
【特許文献３】特開２００１－７３４７６公報
【特許文献４】特開２００４－１３１９４１公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
特許文献１には「止水材」、特許文献２には「部材、ジョイント部材」、特許文献３には「水切り材」、特許文献４には「排水空間」の構成が存在し、この構成により上側縁等の端部のを図る構造が記載されている。しかしながら、特許文献１～４の構造を上側縁に形成しても、上側縁の左右端部からの雨水の浸入を完全に防止することは出来ないものであった。本発明は、シーリング材の経年劣化により、万一外装材裏面に雨水が浸入した場合でも、確実に止水及び排水して雨水の回り込みを防止し、外装材から屋内側（下地材）への漏水を回避することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
本発明はこのような欠点を解決するために、外装材の下端面と開口部上側縁及び上側縁部端部間の止水構造において、上側縁に略断面Ｌ字状の水切り材と、該水切り材の上部に外装材γの下端部を被覆する断面略クランク状の見切り材を形成し、水切り材と見切り材間の上側縁における両端部をシーリング材で、見切り材と外装材間の上側縁における両端部分をＪ字状の止水パッキンで閉塞した外装材下端面と開口部上側縁との止水構造を提供

するものである。
【発明の効果】
【０００６】
本発明に係る開口部上側縁と外装材端部との止水構造によれば、（１）外装材と見切り材の取り合い部のシーリング材が経年劣化で切れてしまった場合でも、浸入した水を外装材の裏側から下地材に回り込ませることがなく、確実に上側縁から排水することができる。（２）従来の小口カバー仕様の納まりに見られたシートやテープの露出がない。（３）見切り材を断面クランク状に形成したために、従来のコ字状見切り材では外装材施工の前に施工しなければならないのに対して、本願発明は後施工が可能であり、施工性が向上する。等の特徴、効果がある。
【図面の簡単な説明】
【０００７】
【図１】本発明に係る開口部上側縁と外装材端部との止水構造の代表的一例を示す説明図である。
【図２】本発明に係る開口部上側縁と外装材端部との止水構造の図１Ａ－Ａ線における断面図である。
【図３】本発明に係る開口部上側縁と外装材端部との止水構造の一部を省略した正面図である。
【図４】本発明に係る開口部上側縁と外装材端部との止水構造に使用する水切り材と見切り材の一例を示す断面図である。
【図５】本発明に係る開口部上側縁と外装材端部との止水構造のその他の実施例を示す説明図である。
【発明を実施するための形態】
【実施例】
【０００８】
以下に図面を用いて本発明に係る開口部上側縁と外装材端部との止水構造について詳細に説明する。図１は本発明に係る開口部上側縁と外装材端部との止水構造の代表的一例を示す説明図、図２は図１Ａ－Ａ線における断面図、図３は本発明に係る開口部上側縁と外装材端部との止水構造の一部を省略した正面図、図４（ａ）、（ｂ）は本発明に係る開口部上側縁と外装材端部との止水構造に使用する水切り材２と見切り材６の一例を示す断面図、図５は本発明に係る開口部上側縁と外装材端部との止水構造のその他の実施例を示す説明図である。図中、αは下地材、βは開口部、γは外装材を示している。
【０００９】
下地材αは、図１に示すように窓台、当て木などからなり、窓枠となる各種サッシを取り付ける躯体であり、開口部βを形成するサッシは、アルミニウム、合成樹脂、木等からなり、建物の開口部にあって窓ガラスなどを取り付けるために使用する。さらに外装材γは、金属、合成樹脂、窯業系、木、天然石、セメント系などの材料単体、あるいはこれらの複合体からなり、主に建物の外壁として使用するものである。
【００１０】
図１、２を用いて、本願発明に係る開口部上側縁と外装材端部との止水構造について説明する。図１、２は開口部上側縁βと外装材γ端部との止水構造の代表的一例とそのＡ－Ａ線断面図を示している。水切り材２は、後記する傾斜片４先端を開口部βの表面β１に接しながら、開口部βと向かい合う内側に連続してシーリング材１が充填され、固定片３がビス１５によって下地材αに固定され、さらにこの水切り材２の上端部３ａの少なくとも表面側（必要により裏面側）にシーリング材５が水切り材２の長手方向全長に亘って連続して形成されている。
【００１１】
水切り材２は図４（ａ）に示すように、垂直平面状の固定面３と、固定面３の下端を屋外側へ下り勾配で突出した傾斜片４とからなるものであり、固定面３に上端部３ａを形成し、固定面３と傾斜片４の屈曲部を下端角４ａとする。

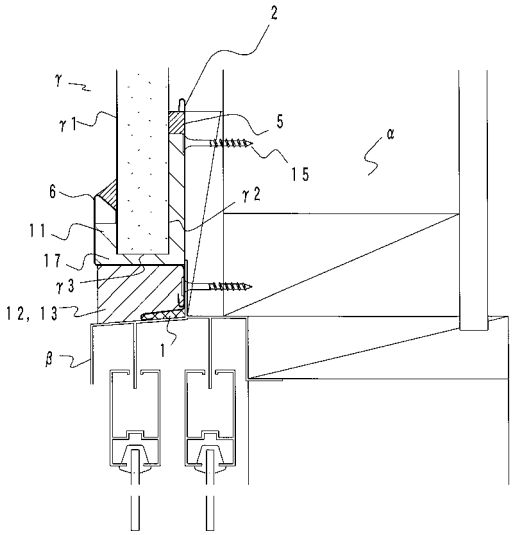
【００１２】
見切り材６は図４（ｂ）に示すように、上記水切り材２の下端角４ａを起点として、垂直方向に向って、固定片３の表面上に、重ね合わせながらビス１５などで固定する垂直平面状の固定片７と、固定片７上端を屋外側へ水平に屈曲し、中間に排水手段８を設けた支持片９と、支持片９先端を上方に垂直に屈曲し、外装材γの小口端部を覆う被覆片１０とから略断面クランク状に形成されたものである。なお図１では、排水手段８として一般的な長円貫通孔を破線で示したが、孔ピッチは任意に定めることが可能であり、他に切り起し（ハーフピアス）加工、部分的なパンチングメタル加工、部分的なラスメタル加工などの各種孔加工を採用できることは勿論、内側から外へのみ水が流れる逆支弁的な排水装置を配設することもできる。なお、被覆片１０の先端には、屋内側でかつ下方へ傾斜して屈曲した受け面１０ａを形成し、後記するシーリング材１６を形成するシーリング材受け面とするものである。
【００１３】
前記水切り材２、見切り材６とから倒立コ字状に形成された空間とそれに挿入される外装材の表面γ１、裏面γ２並びに下端面γ３の３面からなる外周との間で、正面から見た両端部に断面Ｊ字状で短尺の止水パッキン１１が装填されている。
上記パッキン１１とシーリング材５端部とは隙間無く接し、かつ止水パッキン１１は、見切り材６と水切り材２及び外装材γの外周が互いに弾力下で密着するように弾力性、クッション性、また必要により少なくとも一面以上に接着性を有した部材である。さらに前記シーリング材１３、１６と協働して切れ目のない閉塞空間１７を形成するためのものである。
【００１４】
水切り材２と見切り材６との上下隙間１２で正面から見た左右両端部、外装材γと被覆片１０先端との間、外装材γと水切り材の固定片上端部３ａ間との間はシーリング材１３、１６で閉塞されており、上記シーリング材１３を形成した左右両端を除く部分は、排水空間１４が形成されている。図３では、正面から見たシーリング材１３，１６と止水パッキング１１をハッチングおよび破線で示している。また、シーリング材１６は見切り材６と外装材γ間に形成したシーリング材である。
【００１５】
なお図示しないが、この排水空間１４に正面から見た横断面が櫛刃状で下地材α側から外装材γの表面側に向って連通した任意ピッチの排水溝を持つ化粧部材を装填したり、シーリング材１３を排水空間１４に対しても全容量又は必要量充填した後に、この部分のシーリング材１３に任意ピッチ、任意形状の排水溝や排水穴を形成することも可能である。
勿論、Ｊ字状の止水パッキンは成形品に限らず、現場施工の充填型としたり、あるいは２以上の部材を組み合わせたものを使用することもできる。
【００１６】
図５は外装材γとして、化粧面に繰り返し凹凸形状を施した例を示したが、その他の表面形状の外装材γにも使用可能である。
【産業上の利用可能性】
【００１７】
本発明は、外装材の表、裏面にシーリング材とＪ字状の止水パッキンによる閉塞空間１７を形成することによって浸入した雨水等を止水し、さらに排水空間や排水溝、排水穴を通じて排水して、屋内側への漏水を無くすることに活用出来るものである。
【符号の説明】
【００１８】
α　下地材
β　開口部
β１　表面
γ　外装材
γ１　表面

γ２　裏面
γ３　下端面
１　シーリング材
２　水切り材
３　固定片
３ａ　上端部
４　傾斜片
４ａ　下端角
５　シーリング材
６　見切り材
７　固定片
８　排水手段
９　支持片
１０　被覆片
１１　Ｊ字状の止水パッキン
１２　隙間
１３　シーリング材
１４　排水空間
１５　固定具
１６　シーリング材
１７　閉塞空間

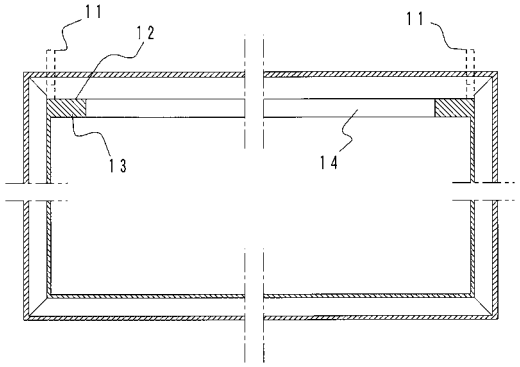
【図１】



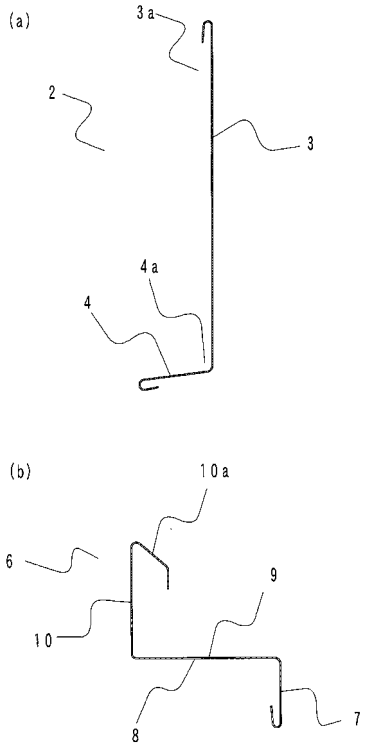
【図２】



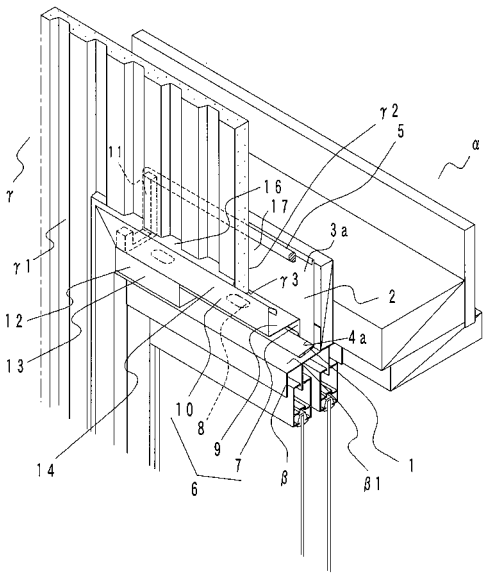
【図３】


11
12
11
13
14

【図４】


(a)
3a
2
3
4a
4
(b)
10a
6
9
10
8
7

【図５】


γ2
5
α
γ
11
16
17
3a
γ1
γ3
2
12
13
4a
10
8
9
7
14
6
β
β1
1